



落ちアユ、けさ大漁

朝日の中 落て簀で跳ねる

延岡水郷鮎やな

1/16

延岡市の大瀬大橋下 落て簀(す) いっぱの 景が広がった。やな師 量が捕れるのは、先週 いう。
流に架かる延岡水郷鮎 アユが落ち、朝日に輝 の高橋生次さん(71) に続き今季2度目で、 高橋さんが午前7時
(あゆ)やなにけさ、 きながら跳びはねる光 によると、まだまった この先も期待できると 前に日課の安全点検に

訪れ、大量のアユを確認。水温が下がり、西風が吹く好条件を察し、前日から落て簀への水量が増すよう、やなの具合を調整していたところ、予感的の中したという。

落ちたアユの量は高橋さんの目測で80キ以上。小ぶりの個体を逃がしても2000匹近くになる。産卵期を逃さないのもやな漁のことといい、つかんだだけで卵がこぼれ出すほど腹の膨れた20キ大の子持ちアユが多く見られた。

新型コロナウイルス対策で、残念ながら今年は鮎やな一帯での食事提供が中止されたため、確保したアユは全て急速冷凍して保存。落て簀では高橋さんら職人が、ある程度まで育ったアユを素早く手網で集めては次々と籠をいっぱいにして、車に積み込んだ。

冷凍施設の保存区画を確保するのも一苦勞というが、「指をくわえてアユを待つより、忙しくて手間暇かけた方がいい」と高橋さん。子どもの頃から父のやな漁を手伝い、現在地での架設が12年目となるベテランは、「上流にはまだアユが多く、今後期待できる」と心地よい汗を流していた。